

学会名変更のお知らせ

平素より当学会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。この度、2024年10月14日に開催された理事・評議員会にて学会名称の変更を提案し、全会一致で承認されました。さらに、同日に開催された総会におきましても、会員の皆様のご承認をいただき、全会一致で可決され、会則を変更いたしました。

当学会は以下のとおり学会名称を変更いたしましたので、お知らせ申し上げます。

● 新学会名称

日本語表記：日本生殖ホリスティック医療学会（旧：日本レーザーリプロダクション学会）

英語表記：Japan Society for Reproductive Holistic Medicine

略 称 ：JSRHM

学会名称変更に伴う手続きについて、順次進めてまいります。移行が完了するまでの間、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。会員の皆様におかれましては、引き続き、学会活動へのご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

日本生殖ホリスティック医療学会

（旧：日本レーザーリプロダクション学会）

事務局

トピック2：第19回日本レーザーリプロダクション学会を終えて

2024年10月14日に大阪豊中市のライフサイエンスセンタービルにおいて第19回日本レーザーリプロダクション学会を開催しました。約140名という多くの方に参加をいただき、また大会運営にご協力いただいた多くの皆様のおかげで成功裡に閉会を迎えられましたことを改めてお礼申し上げます。これまで本学会では、名誉理事長の大城俊夫先生が世界に先駆けて臨床応用されたレーザー治療を不妊症治療に応用すること、そしてその知見を持ち寄りより良い治療を模索し共有してきました。2023年の学会理事会で大会長を拝命してからの時間不足もあり、過去の大会同様に質の高い議論の場を提供できるかどうか、大いにプレッシャーを感じて大会の準備にあたってまいりました。

統合医療.1では、まずIVF Japanの森本義晴CEOに統合医療を横断的に俯瞰し総論をご講演いただき、不妊栄養学・鍼灸・漢方薬の不妊治療への使用の注意点について、それぞれの先生にご講義をいただきました。

シンポジウムでは広島HARTクリニックの向田哲規先生に流産既往・反復着床不全に対するPGTの実施経験について、IVFなんばクリニックの門上大祐先生には子宮内フローラ検査とその臨床成績についてご講演いただきました。2022年から不妊治療の保険適用に伴い適応外の検査が実施できなくなっている背景がありますが、こうして先進的な知見を蓄積してゆくことはARTの次のステップを目指して高度生殖医療を実施する施設の責務でもあり、大変示唆に富んだシンポジウムとなりました。

ランチョンセミナーでは閉経関連泌尿生殖器症候群に対する炭酸ガスフラクショナルレーザー療法について、この分野の第一人者である杉下陽堂先生と八田真理子先生に講演をいただきました。骨盤周囲の血流改善として徐々に広がりを見せている炭酸ガスフラクショナルレーザー療法が今後不妊治療に応用されていくためのヒントが多く得られた講演でした。

統合医療.2のセッションでは、日本妊活協会の中野智彰理事による妊活のサポート・啓発活動の社会的な意義についての講演、totellの北川慎也代表が妊活整体と自律神経の関係についての講義と実技を、また新百合ヶ丘総合病院の袴田拓部長には妊娠出産の栄養学でもとりわけ「鉄」の重要性について講演をいただきました。それぞれこれまでの当学会で議論されてきた項目とはまた違った切り口からの不妊症へのアプローチで、大変意義深いセッションとなりました。

教育講演では、皮膚科領域でレーザーを使用した母斑治療の第一人者である神戸ほくと病院の長濱通子先生にご講演いただきました。母斑の分類から治療開始時期・そ

の治療成績・予後などを系統だて、非常に理解しやすくご講義いただきあつという間の講演時間でした。

統合医療.3では、レーザーリプロダクション学会らしく LLLT に関する 2 演題がありました。実演も含めた治療成績の発表と、整体治療と組み合わせた LLLT という新しい方法の試みを発表頂きました。また、月経周期に合わせて足ツボ療法をアレンジするという試みも発表していただき、不妊症分野での統合医療の新しい取り組みとその可能性を感じるセッションとなりました。

特別講演では大阪大学感染制御学講座の忽那賢志教授に、2020 年から世界を襲った未知のウイルス感染症に対峙した経験をお話しいただきました。感染者数がどんどん増えてゆき、世の中が徐々に暗い雰囲気覆われていったあの数年間を思い出させる迫力のある講演でした。その最前線に立ちながら感染対策やワクチン接種について SNS を用いた正確な情報発信をしてこられました、その重要性を再確認することができました。「次回」に行かせる教訓も多く得られた特別講演でした。

学会を主催・運営することが私自身全くの初めてで、学会の質を落とすことなく、参加者の心に残るものにできるのか、当日まで不安でしたが、沢山のスポンサーのご協力と関係者のお力で盛会裡に終えることができ、ただただほっとしております。特に大会事務局としてご準備くださったプランニングフォレストの尾崎さん、実務をご担当くださった IVF 大阪クリニックの大垣さんと稲垣さん、大会当日に会場での実務をご担当頂いた IVF Japan のスタッフ皆様には大変お世話になりました。紙面を借りて、改めて感謝申し上げます。

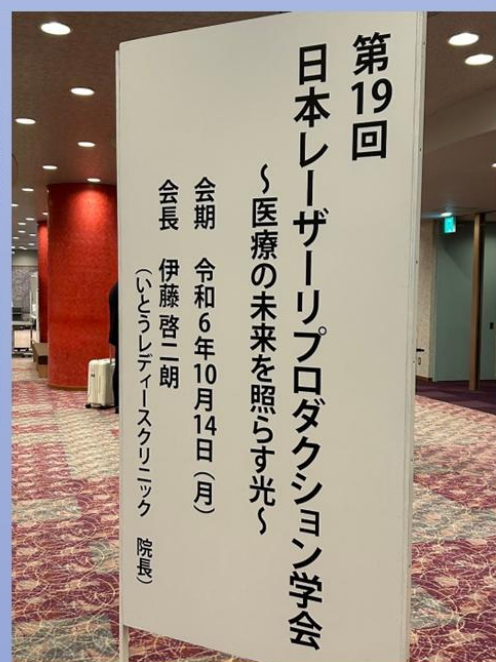
さて、わが国の不妊治療は、2022 年に高度生殖医療の健康保険適用が始まってから若年女性の占める割合が増加し、全体的に不妊治療成績は上昇しているようにみえます。しかしながら、高齢女性を対象とした不妊治療や、難治性の不妊症ではその成績は改善していないのは周知のとおりで、レーザー治療を含めた「統合医療」の不妊治療への応用が期待されています。そこで、日本レーザーリプロダクション学会はレーザーの枠を拡大し包括的に生殖医療に向き合えるように、学会名を【日本生殖ホリスティック医療学会】と変更しました。高度生殖医療における統合医療の発展に大きく貢献できる学会へとまた一步踏み出しました。今後とも 日本生殖ホリスティック医療学会（旧日本レーザーリプロダクション学会）をどうぞよろしくお願いいたします。

第 19 回日本レーザーリプロダクション学会 大会長

いとうレディースクリニック

伊藤 啓二郎

大会中の様子



トピック3：第20回日本生殖ホリスティック医療学会（旧：日本レーザーリプロダクション学会）について

第20回日本生殖ホリスティック医療学会（旧：日本レーザーリプロダクション学会）の開催が決定いたしました。

前回の第19回大会では、いとうレディースクリニック院長の伊藤啓二郎大会長のもと、盛大に開催されました。本大会は、学会名を変更後、初めての記念すべき大会となります。学会名の「ホリスティック」とは、ギリシャ語の「Holos（全体）」に由来します。心、身体、命、人間を全体として捉え、精神・身体・環境が調和した中で、その人にとって最良の Quality of Life を追求する医学の考え方を指します。本大会では、このホリスティック医学の理念をもとに、生殖医学の最先端技術に加え、心理面、栄養療法、運動療法、鍼灸、カイロプラクティック、アロマセラピー、水素療法など、統合医療や再生医療の多様な分野との連携を目指しています。

開催概要

- ・ **日時:** 2025 年 11 月 30 日
- ・ **会場:** コングレスクエア日本橋（東京）

第1会場では講演をメインとし、第2会場ではハンズオンプログラムを予定しています。特に第2会場では、各分野で15分の講演後に実技セッションを行う形式です。統合医療や再生医療の可能性は、生殖医療の現場でますます重要な役割を果たしており、社会の変化や医療技術の進歩とともに包括的な治療に欠かせない存在となっています。本学会では、こうした技術革新を共有し、未来を切り拓く意義ある議論を深めてまいります。

記念すべき第20回大会が、学術的にも実践的にも充実した内容となるよう、全力を尽くしてまいります。ぜひ、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

第20回日本生殖ホリスティック医療学会
（旧：日本レーザーリプロダクション学会） 大会長

木場公園クリニック

吉田 淳

トピック 4：理事・評議員会および総会

1) 学生会員の一部会則改定

現行の会則の表現を「医学生」から「学生」へ変更しました。

変更後：

「学生会員は本学会の目的に賛同し、レーザー医学に関心のある学生で別に定める手続きを経て理事会において承認された個人とする。」

2) 現顧問の佐藤 和雄 先生が、2023 年 6 月 9 日にご逝去されました。これまでの多大なるご功績に深く感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

3) 学会名を変更するとともに、5 年ごとに学会名の見直しを行います。

2024 年 10 月 14 日より、改正後の会則が適用されます。また、学会ホームページにつきましては、現在更新準備を進めており、準備が整い次第、改定内容を反映した形で公開いたします。

引き続き、会員の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2024 年 12 月

日本生殖ホリスティック医療学会
(旧：日本レーザーリプロダクション学会)
(木場公園クリニック内)